

(英語)

楽しく学び、進んで伝え合える子どもを育てる
～英語活動を通して～

大阪市立新平野西小学校 研究推進委員会

1. 研究主題設定の理由

本校では「心豊かで、たくましい子どもを育てる」という教育目標のもと、「互いの違いを認め、豊かな心を持ち、よく考えてやりぬく子どもを育てる」ところを学校経営の重点として教育活動を進めている。

近年の研究の経過としては、平成24年度より、「意欲的に課題を解決しようとする子どもを育てる」を研究主題とし、算数科において、問題解決学習に即した学習過程を基本に、言語力・表現力を高め、自ら学ぶ力を養うための指導法の充実に努めてきた。その結果、既習の学習内容を活用しながら、自分で解決していこうとする態度が徐々にではあるが身についてきた。

また、本校では「伝え合う力を育てる」ということを大切にし、教育活動全般を通して取り組んできている。その結果、友達の考えを理解するためにしっかり聞く態度や、自分の考えを理由付けして説明する力も少しずつついてきている。しかしながら、伝え合うこと自体を楽しむこと、即ち、進んで自分のことを伝えたり、友達のことを尋ねたりするなど、積極的に友達に関わろうという姿勢が十分に身についているとまでは言えない。

そこで、昨年度からは、英語活動を通して上記の課題解決にせまることを目的に取り組んできた。

2. 研究の趣旨

一年間取り組んだ結果、教職員の英語活動への苦手意識が少なからず払しょくされ、英語活動の指導力についてもある一定の向上が見られた。反面、低学年・中学年でも活動を行ったため、指導計画が十分でないという課題や、ICTを活用したりC-NETを効果的に活用したりすることについてはまだまだ十分でないことが明らかになった。

本年度は、前年度の成果を活かしながら課題を克服するために、昨年度同様「楽しく学び、進んで伝え合える子どもを育てるー英語活動を通してー」を研究主題として指導者側の様々なアプローチの方法や、授業内容の工夫や環境整備の工夫を行うこととした。昨年度、英語活動をする上での環境整備が十分でないという課題があった。そこで、空き教室を利用し、『英語教室（英語教材教室）』を設置し、環境整備を進めることで英語活動を進めやすい環境を目指した。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように4つ設定した。

(1) 年間活動計画の工夫

○学年の発達段階に応じた学習内容にする。

・昨年度の反省を受けて、低・中学年の学習内容を年間計画で明らかにする。

(2) 教材教具の開発と環境整備の工夫

○歌やチャンツ、アクティビティなどの教材を工夫する。

○絵カード、視聴覚教材を活用する。

・ICT機器の活用をする。

○英語活動に親しめる環境を整備する。

・空き教室を利用した英語教室（英語教材室）の整備をする。

(3) 英語活動の指導方法の工夫

- コミュニケーションの楽しさを感じる指導方法や活動を工夫する。
 - ・ C-NETとのコミュニケーションを密にし、指導方法の共有を行う。
- コミュニケーションに必要な表現に慣れ親しむための指導法や活動を工夫する。
 - ・ C-NETや遠先生に英語の正しい表現方法を確認しながら指導を行う。
- 授業における指導法などを活発に交流し合える雰囲気を高める。

(4) 仲間との関わり合いを深める活動の工夫

- 自分の意見や思いを発表する場の工夫を行い、積極的に思いを伝えようとする態度を育てる。
 - ・ 教材のゲーム化の取り組み
 - ・ 教師対児童の学習場面から、児童対児童の学習場面への転換

4. 研究の成果と今後の課題

今年度の研究の成果

(1) 年間活動計画の工夫

今年度の活動計画は、昨年度の活動計画を元に、1年生から4年生は学校裁量の時間から年間10時間を配当した。各学年の発達段階に応じて配列したが、この配列については検討の余地があると考えられる。5・6年生は英語教材「Hi, friends!」の年間計画例を参考にし、計画した。

(2) 教材教具の開発と環境整備の工夫

絵カードに着目し、様々なテーマごとに教師用絵カードと児童用絵カードを手作りで作成した。その数は20項目以上あり、学校全体の備品として常備しておくことで指導時の負担軽減につながった。空き教室を利用して「英語教室(英語教材室)」を整備した。英語の絵本や指導法の書籍、CDやDVDなどを購入し、配列した。また、ICT機器の活用ができるように、多目的室に常時PCと電子黒板、DVDプレイヤー等を配置するとともに、液晶プロジェクターやPCとの連携ができる装置等を随時整え、多目的室以外でも英語活動を積極的に行えるような整備をすすめることができた。

(3) 英語活動の指導方法の工夫

- ①本年度から週1回、木曜日の朝の時間にフォニックスのDVD教材を放映した。
- ②C-NETの積極的な活用を図った。中学年の授業にもC-NETを活用し、授業中にネイティブの発音を聞く機会を多く取り入れた。また、低学年の教員もC-NETとのコミュニケーションを密に行い、学んだことを指導に取り入れていった。また、各学年で英語活動の習得状況や児童の特性に応じて教材・教具に工夫や配慮をした。

(4) 仲間との関わり合いを深める活動の工夫

英語のフレーズを言うことでゲームが進んでいくような、楽しんで相手との意思や情報のやり取りを行い、積極的にコミュニケーションができるような進め方を心がけた結果、子どもたちが積極的に、また楽しそうに仲間とかかわっている場面が多く見られた。

今後の課題

- 「英語教室」のさらなる整備
- 教職員のスキルアップのためにC-NETによる校内研修の計画・実施
- 低・中学年児童のためのC-NETによる動画教材の作成
- 児童同士のコミュニケーションを増やすための場の設定や教材の工夫
- 新学習指導要領実施に向けての学習指導計画の見直し